

クリティカルケア領域に所属する 男性看護師のキャリアに関する実態

—臨床経験年数別での比較—

辻本 雄大（奈良県立医科大学附属病院）

前田 貴彦（三重県立看護大学）

目的

男性看護師は、増加傾向にあり（2014年：73,968人:6.8%）
様々な看護領域に進出し、その役割も期待されている。

クリティカルケア領域の男性看護師

- ・ 看護師に占める男性看護師の割合が多く、男性看護師に期待される役割が比較的明確である。

キャリア志向も高い傾向にある。

経験年数によって、特徴や違いはあるのか？

【目的】

クリティカルケア領域に所属する男性看護師のキャリアおよび
キャリア志向に関する実態について臨床経験年数別での特徴や
違いを明らかにする。

方法

対象

全国の150床以上の病院で、複数（2診療科以上）の診療科を有する1,150施設の内、本研究に協力の得られた544施設に勤務する男性看護師（准看護師を含む）8,539名。

調査方法

平成24年12月～平成25年4月に無記名の選択式一部記述式の自記式質問紙調査を実施し回収は、回答者本人による郵送法とした。

分析方法

対象者の臨床経験年数を1-2年目、3-5年目、6-10年目、11年目以上の4群に分け各項目の無回答を除き、 χ^2 検定と残差分析またはKruskal-Wallis検定を実施した。有意水準は0.05%以下とした。

倫理的配慮

研究代表者が所属する施設の倫理審査会の承認を得て実施した。

回答者の背景

全回答者

3,713名 (回収率43.5%)

クリティカルケア領域の回答者

678名 (今回の分析対象)

回答者の年齢と経験年数

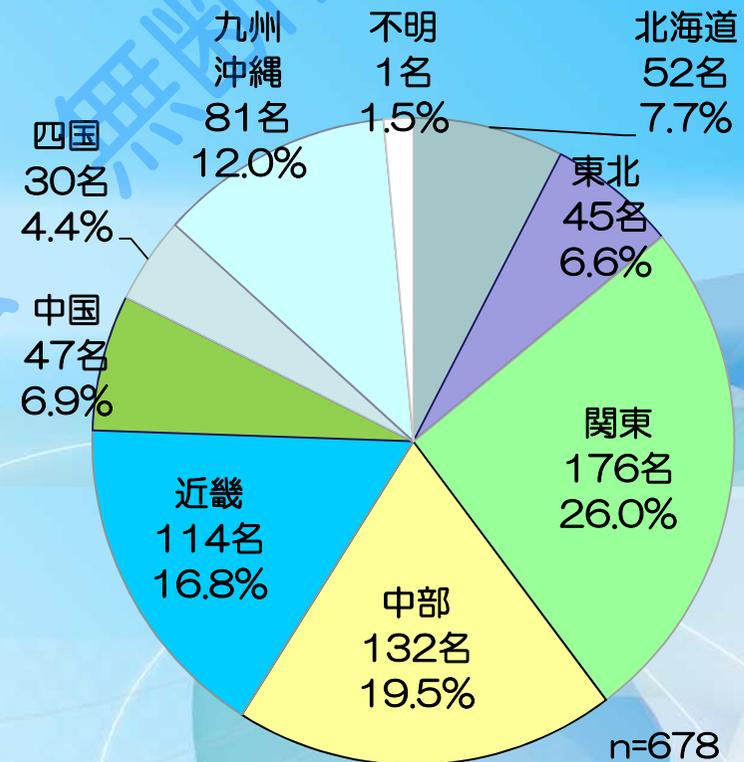
平均年齢 32.3±6.1歳

平均臨床看護経験年数 9.2±5.6年目

所属部署の平均男性看護師人数

5.7名

回答者の勤務施設の所在地



学会等が認定している医療職関連の資格取得の有無

	経験年数				合計
	1-2年目	3-5年目	6-10年目	11年目以上	
資格の 「取得あり」 (人)	1	22	68	109	200
経験年数群の%	1.8%	15.9%	28.8%	44.9%	29.7%
調整済み残差	-4.8**	-4.0**	-0.4	6.5**	
資格の 「取得なし」 (人)	55	116	168	134	473
経験年数の%	98.2%	84.1%	71.2%	55.1%	70.3%
調整済み残差	4.8**	4.0**	0.4	-6.5**	
合計 (人)	56	827	236	243	673

**p<0.01

看護職関連を含む学校への進学希望の有無

	経験年数				合計
	1-2年目	3-5年目	6-10年目	11年目以上	
今後、進学希望が「ある」 (人)	18	40	79	65	202
経験年数群の%	31.0%	29.4%	34.2%	27.3%	30.5%
調整済み残差	0.1	-0.3	1.5	-1.3	
今後、進学希望が「ない」 (人)	40	96	152	173	461
経験年数の%	69.0%	70.6%	65.8%	72.7%	69.5%
調整済み残差	-0.1	0.3	-1.5	1.3	
合計 (人)	58	136	231	238	663

将来的に目指そうと考えている看護職関連の職種の有無

	経験年数				合計
	1-2年目	3-5年目	6-10年目	11年目以上	
考えている職種 が「ある」 (人)	30	76	139	107	352
経験年数群の%	51.7%	56.3%	60.4%	44.6%	53.1%
調整済み残差	-0.2	0.8	2.8**	-3.3**	
考えている職種 が「ない」 (人)	28	59	91	133	311
経験年数の%	48.3%	43.7%	39.6%	55.4%	46.9%
調整済み残差	0.2	-0.8	-2.8**	3.3**	
合計 (人)	58	135	230	240	663

**p<0.01

離職を考えたことの有無

	経験年数				合計
	1-2年目	3-5年目	6-10年目	11年目以上	
離職を考えたことが「ある」 (人)	19	67	96	116	298
経験年数群の%	32.8%	48.9%	41.4%	48.1%	44.6%
調整済み残差	-1.9	1.1	-1.2	1.4	
離職を考えたことが「ない」 (人)	39	70	136	125	370
経験年数の%	67.2%	51.1%	58.6%	51.9%	55.4%
調整済み残差	1.9	-1.1	1.2	-1.4	
合計 (人)	58	137	232	241	668

看護職継続におけるモデルや目標とする男性看護師の必要性

経験年数			
臨床看護 経験年数	n	M±SD (平均ランク) 必要だと思う5点 思わない1点	Kruskal-Wallis検定結果
1-2年目	57	4.46±0.76 (376.23)	<p>0.047</p> <p>0.009</p>
3-5年目	138	4.36±0.93 (367.05)	
6-10年目	235	4.16±1.15 (341.45)	
11年目以上	243	3.98±1.18 (306.43)	
合計 (人)	673	4.16±1.10	

身近にモデルとなる男性看護師の有無

	経験年数				合計
	1-2年目	3-5年目	6-10年目	11年目以上	
身近にモデルが「いる」 (人)	39	85	113	86	323
経験年数群の%	68.4%	61.6%	47.9%	35.5%	48.0%
調整済み残差	3.2**	3.6**	0.0	-4.8**	
身近にモデルが「いない」 (人)	18	53	123	156	350
経験年数の%	31.6%	38.4%	52.1%	64.5%	52.0%
調整済み残差	-3.2**	-3.6**	0.0	4.8**	
合計 (人)	57	138	236	242	673

**p<0.01

まとめ

- 資格取得者は、11年目以上が最多の44.9%であり、他の年代に比べて、取得者の割合が多い傾向にあり、継続的にキャリア形成を進めていると推察する。
- 進学希望や将来的に目指そうと考えている看護職関連の職種が「ある」者の割合は、6-10年目に多く、この時期がキャリアの方向性を考える分岐点であり、キャリア支援の充実が必要である。
- モデルや目標とする男性看護師を必要と思う程度は、11年目以上に比べ1-5年目で有意に高く、実際モデルとなる男性看護師が身近に「いる」者の割合も、1-5年目では多い傾向にあった。
- 逆に、11年目以上では、「いない」の方が多い傾向にあった。

継続した就業を続けキャリアを積むためには、経験年数に合わせた支援とモデルとなる男性看護師の育成、院外も含めたコミュニティへの参加などの支援が必要である。